

商工会に対する補助金の継続は

新規事業に対しては検討する

小井土 哲雄 議員



問 今年50周年を迎えた商工会であるが、日本経済の混迷が続く中、設備投資に必要最小限の維持・管理を強いられ、依然慎重姿勢から脱皮できない状況である。商工観光事業は、町の補助金に頼らざるを得ない状況である。

そこで今後の補助金をこの先どのように考えているのか。

また、町内事業者の活性化について町の考えを問う。

企画財政課長 自律協働のまちづくり推進計画により平成18年に50万円、19年に50万円を減額し、現状300万円で補助金の額が推移している。

商工会の機能と役割を再度見直して再構築を図り、新たな特産品開発などに取組みつつ、町の補助金は縮小をする方向での改革案



として推進計画に記載されている。

推進計画では、来年最終年度を迎えるが一応計画として50万円削減し、250万円の補助金とする計画になっている。

何か事業を実施する状況での補助金であれば、十分に検討する余地はある。

町長 8年前に定めた計画であるが、現在その計画を変更する協議・検討をしていないので、計画どおり進めて行くことになる。

多子世帯への独自の保育料軽減は

適正な保育料算定に向け、検討

市村 千恵子 議員



問 働きながら子育てをし、第2子、第3子を望む人が安心して産み育てられる環境整備が求められている。

国の子育て世代への経済支援も後退し、さらには税制改正で新たな負担が増えている中、財政的支援を含め出生数増加につながる施策として、次の点の充実に求める。

- 1、多子世帯への独自の保育料の軽減を
- 2、延長保育料の見直しを

町民課長 多子世帯で児童が2人以上同時入所の場合、平成21年度から国の基準の改正に伴い、第1子は基準額、第2子は基準額の半額、第3子以降は無料に変更してきている。

24年度には、地方税の一部改正に伴い、扶養控除廃止の影響が生じないよう控除額を据え置く対応をし、

従来通りの保育料にしている。

さらに平成21年度から幼児期教育に入る児童がいる世帯に、広く平等に生活を支援し子育て応援するため3歳児に1人当たり2万円を支給している。

保育の現状を加味し、近隣市町村及び幼稚園との均衡を考慮し、適正な保育料算定に向け検討を行なう。

延長保育料は、ほかの市町村と比べてみても、平均的で適正であると認識している。

町長 利用者の声を聞きながら、必要なところは改善して行きたいと考えている。



雪窓保育園

平成24年度小諸市・御代田町議会議員研修会
議員は地域のオピニオンリーダーであれ

10月26日

第77回町村議会広報研修会

対話と活力ある議会広報のため

10月29日～30日

村井前長野県知事の下、副知事を勤められた板倉敏和氏をお招きし「長野県時代を振り返って」との演題で、小諸市・御代田町議会議員研修会がエコール御代田でおこなわれました。

講演は福島県二本松市、二本松城にある（戒石銘）の由来から始まりました。

碑文に刻まれている言葉は「お前がお上から戴く俸禄は、民の汗と脂の結晶である。下々の民は虐げやすいけれども、神を欺くことはできない」と書かれており、拓本が知事室にかかけられ板倉氏もこの碑文を座右の銘として仕事をしてきたそうです。

人口減少が心配され、国も地方自治体も膨大な借金を抱え、高齢者対策も大きな課題となっている今、経済活動の拡大も大切だが、儉約の政治も考えるべきではと話された。

次にそば打ち5段の腕前を持つ氏のそば談義になり

そば切りは宝永3年（1706）信州本山宿で始まったと古文書に記述があり、それから全国にそば切りが広まったそうです。

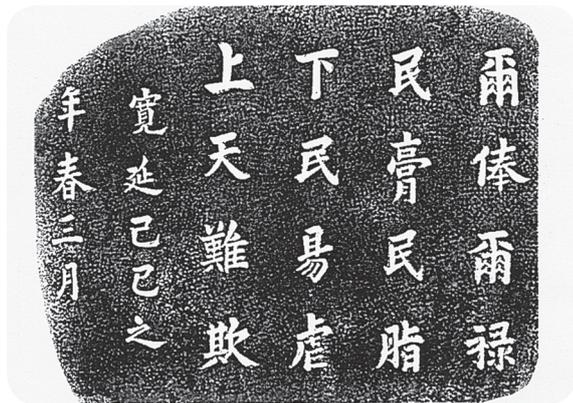
全国にはいろいろな食べ方があり、岩手県には「わんこそば」という食べ方がある。

信州にも「投げそば」という食べ方があり、地域興しという観点から面白いのではないかと話された。

議員のあり方としては地域のオピニオンリーダーであってほしい、また歴史（特に近代史）を学び、正確な歴史観を次の世代に伝えていってほしいと話された。

短い時間でしたが、議員のあり方を深く考えさせられる講演会でした。

野元 三夫
議会だより副委員長



旧二本松藩「戒石銘碑」の拓本

東京の砂防会館に於いて議会だより編集員6名が参加し、昨年の76回に引き続き充実し有意義な研修でありました。

研修内容は、

- ・議会広報「誌」は本当に必要なか 半沢幹一氏（共立女子大学文学芸学部教授）
- ・対話と活力ある議会広報のために 編集・レイアウトのキーポイント 吉村 潔氏（エディター）、榎メディアブレイン代表取締役

- ・議会広報誌の撮影方法と表現方法 議会だよりの撮影方法市民の笑顔からテーマを表現します 川西正幸氏（日本写真家協会会員）
- ・で翌30日は、
- ・議会広報クリニック第2分科会、芳野政明氏（編集・出版アドバイザー）のクリニックとハードではありましたが中身の濃い研修でした。

それぞれの研修内容で感じたことは、議会広報（経

過広報）と行政広報（結果広報）の違いを明確にすることであり、議会広報として住民に周知することの大切さでありました。

ただ、その中で危惧されることは、難しい文章や文字の多さで読者に読む意識が薄れてしまい、中には読まない可能性も指摘している。

それは、伝える広報であって伝わる広報でないからとの指摘があり、議会活動の何を、どのように伝えるか。ということである。

- ・住民が知りたい事
- ・関心・興味・ニーズ
- ・議会から伝えたい事
- （自治体の重要テーマ）
- ・住民と共有したい重要情報を取捨選択の3点を挙げていました。

読んでいたただかなければ意味をなさない議会だよりではあるが、第76回広報研修会以前より編集方法が進化し、前回研修以降さらに改革が進み、見やすい議会



議会だより編集委員長
小井土 哲雄